

ヒト脳オルガノイド研究に対する 日本市民の態度

近年、科学技術の研究開発のなかに社会の視点を取り入れることの重要性が強調されている。ヒトの幹細胞から3次元的な神経組織を作製するヒト脳オルガノイド研究についても同様の指摘がなされてきたが、実際の市民の態度の調査はほとんど存在しなかった。本発表では、我々が2022年末に日本人を対象に行ったヒト脳オルガノイド研究に対する態度調査の一部を紹介し、倫理学への含意を検討する。回答者が道徳的に重視した事柄は倫理学者の考えかたとは様々な点で異なっており、既存の倫理学上の議論は社会的懸念にうまく応答できていない可能性がある。

3.26 (水)
15:00-17:00

発表者

片岡 雅知

広島大学大学院人間社会科学研究科上廣応用倫理学講座 寄附講座准教授。

博士（学術）（2024年3月、広島大学）。

東京大学総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。

京都大学ヒト高等生物学研究所、広島大学大学院人間社会科学研究科で研究員として勤務の後、現職。専門は心の哲学と倫理学。現在は、ヒトの初期発生に関する倫理学研究にとりくむ。その他、科学技術のデュアルユース問題や、道徳的エンハンスメント、道徳的動機についても著作がある。

- ・ 会 場: 人文・社会科学総合教育研究棟 W517
- ・ 参加費: 無料（どなたでもご参加いただけます）
- ・ 企 画: 稲荷森輝一、宮園健吾

※本研究会はトヨタ財団「先端技術と共生する新たな人間社会」（課題番号D22-ST-0028：近未来社会における新たな自由意志・責任概念）の支援を受けています

お問合せ： 北海道大学文学研究院
応用倫理・応用哲学研究教育センター

TEL : 011-706-4088
caep@let.hokudai.ac.jp
<https://caep-hu.sakura.ne.jp>